

# 農業の新しい技術

No. 731 (令和2年(2020年)6月)  
分類コード 01-14  
熊本県農林水産部

## 黒毛和種種雄牛「美津福重」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室  
担当者：眞鍋由希

### 研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

### 研究の成果

1. ロース芯面積及び脂肪交雑に優れた黒毛和種種雄牛「美津福重」を選抜した。

○血統

父 美津照重 (黒 13968)	祖父 美津照(黒 13162)	— 美津福(黒原 2748)
	祖母 いつみ(黒原 1159970)	— 美津福(黒原 2748)
母 ふくこの3 (黒高 217198)	祖父 百合茂(黒原 4086)	— 平茂勝(黒原 2441)
	祖母 ふくこ(黒原 995589)	— 糸福(大分)(黒育 229)

○登録番号：黒原 5969

○生年月日：平成26年1月16日

○生産地：天草市五和町(野嶋 重喜)

2. 現場後代検定成績および育種価

○ロース芯面積は去勢 75.3  $\text{cm}^2$ 、雌 67.5  $\text{cm}^2$ と非常に大きく、育種価も +29.26  $\text{cm}^2$ (評価種雄牛 2,638 頭中 3 位)と極めて高かった。

○脂肪交雑は去勢 9.44、雌 8.45 と非常に高く、いずれも歴代最高の成績であり、育種価も +3.04 (評価種雄牛 2,638 頭中 5 位)と極めて高かった。

○SBVは枝肉重量 2.04、脂肪交雑 3.26、ロース芯面積 4.08、バラの厚さ 2.42、皮下脂肪の厚さ -0.23 であり、すべての形質について改良効果が大きいと推定される。

※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするために、各形質の育種価を同一スケール上で比べられるようにしたもの。値が +1 以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

母はロース芯面積と脂肪交雑の育種価が県内トップクラスの「ふくこの3」、父は特に肉質に優れた優良種雄牛の「美津照重」であり、この交配により作出された本牛は、ロース芯面積と脂肪交雑で去勢、雌ともに歴代最高の成績を記録し、雌では枝肉重量とバラの厚さも歴代最高であった。特に脂肪交雑では BMS.No10 以上の最高クラスが多く、去勢の平均は 9.4 と全国にも通用する好成绩をおさめている。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



格付け:A-5 枝重:544.2kg  
 BMS:12 ロース:82cm<sup>2</sup>  
 ばら9.3cm 母の父:平茂勝

美津福重 (みつふくしげ)

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	歩留基準値
去勢	9	485.0	9.44	75.3	8.0	2.2	76.5
雌	11	469.1	8.45	67.5	8.1	2.8	75.2
全体	20	476.2	8.90	71.0	8.1	2.5	75.8

表2 育種価(BV) (R2.2月評価)

	順位	育種価 (正確度)	
枝肉重量	97	85.904 0.91	
脂肪交雑	5	3.035 0.91	
ロース芯面積	3	29.256 0.90	
ばらの厚さ	50	1.470 0.89	
皮下脂肪の厚さ	1,549	-0.247 0.91	
歩留基準値	6	4.045 0.91	

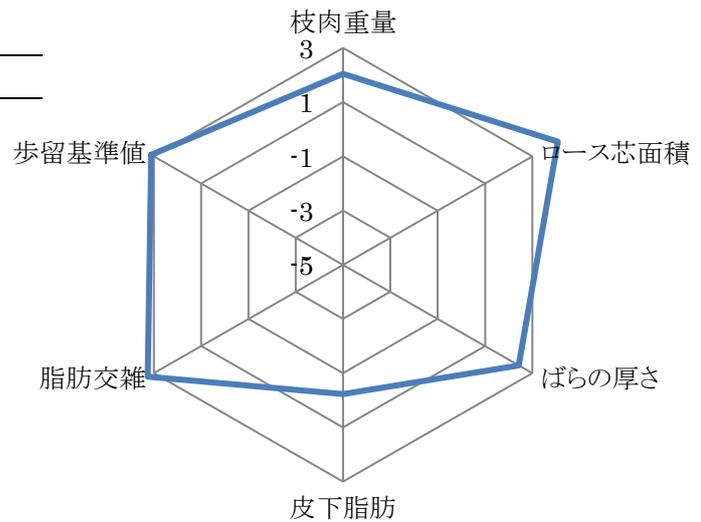


図1 SBV (標準化育種価)

※ 産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるように処理したもの  
 ※ 皮下脂肪は逆符号

※ 後代頭数 22 頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛 2,638 頭中の順位